

フローンファイラー

コテ用・ローラー用

防水材、床材の下地調整エキスパート。

	コテ用	ローラー用
特長	1. タール、ピッチ除去後の下地処理に優れています。 2. 旧塗膜に対する密着性に優れています。	1. 特殊骨材の配合で、レベリング性を向上、ローラー施工の作業性に優れています。 2. 旧塗膜に対する密着性に優れています。
用途	1. 防水シート層、除去後の下地調整。 2. Pタイルなどの貼り床材、除去後の下地調整。 3. コンクリート、モルタルの素地調整、不陸調整。	1. 塗り替え時の旧塗膜の下地調整。 2. コンクリート、モルタルの素地調整、不陸調整。

※刷毛引き仕上げのコンクリート面に施工する際は、当社までお問い合わせ下さい。

容量・荷姿・塗装面積

品名	荷姿	容量			塗装面積
		主剤	パウダー	硬化剤	
フローンファイラーコテ用	15Kgセット パール缶	4Kg	10Kg	1Kg	0.8~1.2Kg/m ² ×1回塗りで18.75~12.5m ²
フローンファイラーローラー用	12.5Kgセット パール缶	4Kg	7.5Kg	1Kg	0.4~0.6Kg/m ² ×1回塗りで31.2~20.8m ²

※主剤、パウダー、硬化剤はパール缶に同梱されています。

フローンファイラー(コテ用・ローラー用)上塗り適性

製品名	防水材 ※1	厚膜・中膜型床材 ※1	薄膜型床材 ※2	
			ソリエポ90 AUコート フローンアクアエポ フローンクイックF フローンマルチサット エポエース	ハイフローン 水性フロアー フローンアクアファースト
フローンファイラー コテ用	○	○	○	○
フローンファイラー ローラー用	○	○	○	○

※1 防水材・厚膜・中膜型床材を施工する際には、ピンホール防止の為、フローンファイラーの上に必ずフローンパウダーを混合したプライマー(プライマー：フローンパウダー=1：0.5~1)を塗布して下さい。
 ※2 薄膜型床材、フローンエポローラーについては、フローンファイラーコテ用塗装時のコテムラが、仕上がりに影響を及ぼしますのでご注意ください。

可使時間と上塗り可能時間

項目	可使時間	上塗り可能時間
温度		
5℃	70分	48~72時間
23℃	50分	24~48時間
30℃	20分	12~24時間

※フローンファイラーコテ用・ローラー用共通です。
 ※上塗り可能時間は、湿度などの塗装条件により多少前後しますので、ご注意ください。

標準工法

	工法名	工程	材料名	使用量 kg/m ²	上塗可能 時間	備考
コ テ 用	FE-F1工法 (総合塗膜厚約2mm) ②フロンプライマーH フロンパウダー ①フロンファイラー コテ用 ③フロン55	1	フロンファイラー コテ用	0.8~1.2	24~48	主剤:パウダー:硬化剤=4:10:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、コテにて塗布。
		2	フロンプライマーH フロンパウダー	0.15 0.15	2~24	A液:B液=1:1(重量比)の割合で計量、電動攪拌機で攪拌したプライマーHを1に対し、フロンパウダーを1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、中毛ローラーにて塗布。
		3	フロン55	1.5	—	A液:B液=8:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、コテにて塗布。
ロ ー ー 用	SE-Fコーティング工法 (総合塗膜厚約0.6mm) ②ソリエポ90 ③ソリエポ90 ①フロンファイラー ローラー用	1	フロンファイラー ローラー用	0.4~0.6	24~48	主剤:パウダー:硬化剤=4:7.5:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、5%の水道水で希釈、攪拌し、塗料溜まりを作らないように、中毛ローラーにて、縦横のムラがでないように塗布。
		2	ソリエポ90 ソリエポシンナー	0.15 0.05	5~24	A液:B液=5:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、ソリエポシンナーで30%希釈し、中毛ローラーにて塗布。
		3	ソリエポ90 ソリエポシンナー	0.15 0.05	—	

※下地に接着剤やタール、ピッチが残っている場合は、十分に除去してから施工して下さい。
 ※フロンファイラーコテ用の粘度調整は、水道水10%以内の希釈でご使用下さい。
 ※フロンファイラーコテ用、ローラー用の使用量は、下地の状況により異なりますのでご注意下さい。

ご使用方法

1. ペール缶のフタを開け、主剤、硬化剤、パウダーを取り出して下さい。
2. 主剤と硬化剤を混合、攪拌後、電動攪拌機で攪拌しながらパウダーを混合、2分間十分に攪拌して下さい。

施工上のご注意

1. 下地は、レイタンス、砂、ゴミ、ホコリ等を完全に除去し、十分に乾燥させておく必要があります。
2. コンクリート・モルタルの養生不足は、水分の影響によりフクレ、硬化不良を、また、アルカリの影響により密着不良が発生する恐れがあります。コンクリート・モルタルは打設後、常温乾燥で夏期3週間以上、冬期4週間以上の期間が必要です。目安として、含水率が高周波水分計ケット社製HI-520・HI-520-2で測定し、コンクリートレンジの表示値が5%以下、かつpH9.5以下になってから施工して下さい。また、降雨直後で下地が水分を含んでいる場合は、2日以上乾燥させて下さい。
3. コンクリート・モルタル等に発生した亀裂は、Uカットしてフロンエポパテなどを充填し、亀裂面が平滑になるようにして下さい。
4. フロンファイラーコテ用および、ローラー用は、3成分反応硬化型ですから、可使用時間に制限があります。施工時の温度、施工面積、作業人員等を考慮して、無駄の無いように材料を配合して下さい。
5. ご使用になる環境を十分に考慮して、適正な材料と施工法を決定して下さい。
6. 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないで下さい。
 硬化時間、硬化後の性能は、施工時の温度に大きく左右されます。

10℃以下 硬化後退 (カブリ、シワ、軟化等発生)	15~25℃ 最適	30℃以上 硬化促進 (ポットライフ短縮)
---------------------------------	--------------	-----------------------------

7. 常時、水を使用される部位については、あらかじめ下地モルタル等に水勾配をつけて下さい。
8. 施工時は引火、爆発、中毒等の事故防止のため、十分に換気し、有機ガス用防毒マスク、保護メガネ・手袋等、保護具を着用して下さい。発火原因となる電気溶接、ガス溶断との並行作業を避けて下さい。
9. 直接皮膚に触れないように充分にご注意下さい。もし触れた場合は、ウエス等で十分に拭き取り中性洗剤で洗って下さい。
10. 材料の保管、取り扱いについては、消防法、労働安全衛生法、その他に基づき、十分な管理をお願いします。
11. 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時、施工後の換気を充分に行なって下さい。
12. 容器、使い残しの塗料を廃棄する場合は許可を受けた産業廃棄物業者と委託契約して処理して下さい。

引火性あり	警 告	感作性あり	有害性あり
	1. 引火性の液体である。 2. 健康に有害な物質を含有している。 3. 皮膚に付着するとかぶれを起こす恐れがある。 4. 蒸気を吸入することにより喘息様症状を起こすことがある。		
業務用	《注意事項》1. 通常の塗料に比べて幾分毒性が強く、吸入したり皮膚に触れたりすると中毒やかぶれ、また、重い健康障害を起こす恐れがありますので取扱いについては、 容器に表示された注意事項を守って下さい。 2. アレルギー性等の特異体質、皮膚過敏症や呼吸器官系疾患を有する人は、取扱いを避けてください。 (呼吸困難や喘息を引き起こす恐れがあります)		
※詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。 ※SDSは弊社HPIにて閲覧、ダウンロードしていただけます。トップページから製品情報のページにアクセスし、各種SDS一覧をご参照ください。			

●お問い合わせは・・・

東日本塗料株式会社



本 社 / 〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
 埼 玉 工 場 / 〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
 仙 台 営 業 所 / 〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
 新 潟 営 業 所 / 〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
 静 岡 営 業 所 / 〒422-8037 静岡県駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063



※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
 ※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

URL <https://www.hnt-net.co.jp> CATALOG NO.18 '23.06.3000